

# 2018(平成30)年度活動方針・事業計画

(2018年4月1日～2019年3月31日)

## 2018年度の目標とテーマ

### 1. 2018年度をどのような年にするか

ふれあいネットまつどは、1998年4月に設立され、丸20年が経過し、本年は、21年目に当たります。いわば、次の20年に向けての第1年目ともいえる年です。また、2000年から17年過ごした北小金から金ヶ作へ移転を行い、新しい地域で活動をスタートさせる年でもあります。

そこで、2つのミッションのうち

◎「困ったときはお互いのたすけあい活動」では、

- (1) 本来事業であるたすけあい活動のシステム改善・会員参加の運営
- (2) 収益事業でもある制度サービスの包括的視点の強化と抜本的拡大に力を注ぎます。

◎「支えあいと助け合いのある地域社会づくり」では、

- (1) 金ヶ作での新しいみんなんち活動を地域とのつながりの中で支え合いと助け合いの拠点とする
- (2) 地域暮らし続けることのできる、24時間切れ目のない支援を提供できる新しいサービス開設に向けた準備を進めることに力を注ぎます。

### 2. 4つの重点をもとに、8つの課題に取り組みます。

- (1) 会員組織の拡大と会員活動を活発にします。
- (2) たすけあい活動のシステム改善・運営への会員参加をすすめます。
- (3) 制度サービスの包括的視点の強化と抜本的な拡大を図ります。
- (4) 新しいみんなんちを支え合いと助け合いの拠点にします。
- (5) 小規模多機能施設等新しいサービスの準備をすすめます。
- (6) 元気シニアをはじめ教育・研修活動の充実強化を図ります。
- (7) 東日本大震災支援活動は状況変化に応じた取組みを行います。
- (8) 事務局機能の強化、スタッフ人材育成・処遇改善を図ります。

### 3. 会設立20周年記念祝賀会を本年11月に開催します

---

## 活動方針(8つの柱)

### 第1の柱 — 会員組織の拡大と会員活動を活発にします。

1. 会員おさそい運動を春・秋2回実施し、ふれあい会員(利用会員)・正会員(協力会員)あわせて500人の会員組織を目指します。
2. 元気シニアの活躍サポート研修会を会員拡大の機会にします。
3. 正会員(協力会員)が入会の初心を活かし、いきいきと活動に参加できるよう、ボランティアコーディネートをを行います。
4. たすけあい活動、サロン・居場所活動以外に会員の活動参加の機会をつくります。中でも、多世代交流イベントを位置づけます。

### 第2の柱 — たすけあい活動のシステム改善・運営への会員参加をすすめます

1. ふれあいサービスを改めて会の中軸の活動として位置づけるとともに、活動の量の拡大ではなく、質の充実を主眼に取り組みます。
2. 利用会員にとって利用しやすく、協力会員にとって参加しやすく、事務局にとって効率的な仕組みの改善と体制の整備をすすめます。
3. 協力会員が社会貢献を実感でき、活動の運営に参画できるようにします。

### 第3の柱 — 制度サービスは包括的視点を強化し抜本的な拡大を図ります。

1. 相談支援は、高齢者・障がい者が地域社会で自分らしく人間らしく暮らし続けることを支援する包括的な支援の観点と24時間365日切れ目のない支援の観点を大切に、居宅介護支援と障がい相談支援を一体的に運営します。
2. 訪問介護サービスは、研修と訓練を計画的に行い、訪問介護員のスキルアップを図り、高齢者の在宅生活を支える専門家集団として強化します。
3. 居宅介護支援と訪問介護サービスは、ふれあいネットまつの基幹事業として、収益の安定に貢献するよう、積極的な拡大を図ります。

### 第4の柱 — みんなんちは多世代交流の拠点にします。

1. 以前の3倍になった面積を活かし、カフェ、講座、くらしの保健室、イベントの4種類の活動に取り組み地域で活動している「こども食堂」などとも交流し多世代交流サロンを目指します
-

---

## 第5の柱 — 小規模多機能居宅介護など新しい事業の準備をすすめます。

1. まずは財政基盤の安定化を図り、内部留保をはじめ資金に余裕がないうちは大掛かりな工事を伴う新規事業は控えます。
2. ただし、今後の会の方向性として地域でくらし続けることのできる、24 時間切れ目のない支援を提供できる新しい事業の準備や勉強会はしていきます。

## 第6の柱 — 元気シニアをはじめ教育・研修活動の充実強化を図ります。

1. 支えあいと助け合いの担い手養成を目的に、地域活動担い手養成研修会、元気シニアを対象とした研修会、福祉有償運送運転者講習会等を開催します。

## 第7の柱 — 東日本大震災支援活動について状況の変化に応じた取り組みを行います。

1. 宮城県東松島市のコミュニティサロン「東松島みんなんち」を引き続き支援していきます
2. 東松島の皆さんとふれあいネットまつど会員・市民の交流バスツアーを開催します
3. 東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトの事務局団体を引き続き担います
4. 同プロジェクトの活動が避難者交流と併せてより地域とのつながりを重視した活動に転換していくことに力を注ぎます。

## 第8の柱 — 事務局機能の強化、スタッフ人材育成・処遇改善を図ります。

1. 使命感が高く、スキル(福祉・介護の専門的スキル+地域マネージャー)の高い事務局組織が必要です。教育・人材育成計画を策定し、人事・処遇制度の整備を行います
-